

2026年2月14日

リーガルテックAI分野で初（※）の IETF Internet-Draftを提出

— AI判断証跡の検証可能性を定義する技術仕様を国際標準化プロセスへ —

5機関独立調査による検証済み

AILEX合同会社（東京都渋谷区、以下「AILEX」）は2026年2月14日、リーガルテック（法律×テクノロジー）分野のAI判断証跡を検証可能にする技術仕様「Verifiable AI Provenance (VAP) Framework and Legal AI Profile (LAP)」を、IETF (Internet Engineering Task Force) にInternet-Draftとして提出し、IETF Datatracker上で公開されたことをお知らせいたします。

5つの独立した調査機関による網羅的な調査の結果、リーガルテック／司法AI分野に特化した先行の IETF Internet-Draftは確認されておらず、本ドラフトは同分野で初めてIETFに提出された技術仕様となります（※）。

提出ドラフトの概要

項目	内容
ドラフト名	draft-ailex-vap-legal-ai-provenance-00
正式タイトル	Verifiable AI Provenance (VAP) Framework and Legal AI Profile (LAP)
提出日	2026年2月14日 (JST)
カテゴリ	Experimental (Individual Submission)
ページ数	51ページ
公開URL	https://datatracker.ietf.org/doc/draft-ailex-vap-legal-ai-provenance/

提出の背景

AIの法律業務への活用が急速に進む中、「AIがどのような根拠に基づき判断を行い、弁護士がどのように精査したか」を技術的に証明する仕組みの必要性が高まっています。

本技術仕様は、AIが法律業務において行った判断の根拠と、弁護士による精査プロセスを暗号学的に記録・検証可能にするプロトコルを定義するものです。IETFの既存セキュリティ技術（SCITT、RATS、COSE）を基盤とし、法律業務固有の要件——弁護士の守秘義務との両立、判断証跡の証拠能力の確保、選択的開示——に対応したドメインプロファイル（LAP）を提供します。

2026年5月の民事裁判IT化（mints）本格稼働を控え、法律業務のデジタルトランスフォーメーションが加速する中、AI判断の透明性と検証可能性に対する要請はさらに強まることが見込まれます。

5機関独立調査の結果

AILEXは、本ドラフトがリーガルテック／司法AI分野に特化した初のIETF Internet-Draftであるかを検証するため、5つの独立した調査機関に調査を委託しました。

調査範囲

IETF Datatracker : AI関連ドラフト99件を含む全ドラフトを複数キーワードで検索

IETF WG : SCITT、RATS、AIPREF、OAUTH、COSE等の関連ワーキンググループ+IRTF全39研究グループ

国際標準化団体 : ISO/IEC、IEEE、OASIS、W3C、ETSI、CEN-CENELEC、NIST、ITU-T、UNESCOの9団体

学術論文 : Google Scholar、arXiv、ACM Digital Library、IEEE Xplore、SSRN

統合結論

5機関統合結論

5機関すべての調査において、リーガルテック／司法AI分野に特化したIETF Internet-Draftの先行事例は確認されなかった。

カテゴリ別確信度（5機関平均）

カテゴリ	確信度	判定
リーガルテックAI特化のIETF I-D	90.6%	主張可
司法AI向けAI証跡標準のIETF I-D	89.4%	主張可

弁護士精査証跡のプロトコル標準化	82.2%	条件付き可
AI判断証跡の検証可能プロトコル全般	36.0%	主張不可

なお、AI判断証跡の検証可能プロトコル「全般」としての「初」は、汎用フレームワーク（VAP Framework等）の先行事例が存在するため主張しておりません。あくまで「リーガルテック／司法AIという特定ドメインに特化した技術仕様」としての初事例です。

本提出の意義

1. リーガルテックAI分野初のIETF技術仕様提出

IETFの歴史において、「Legal AI」を主目的とするプロトコル仕様の提出は本件が初の事例です（5機関調査、2026年2月14日時点）。

2. AI判断の「証明可能性」への技術的回答

AIの「便利さ」ではなく「証明可能性」を提供する技術基盤を、国際的な標準化プロセスに載せることで、法律業務におけるAI活用の信頼性向上に貢献します。

3. 既存国際標準との補完関係

ISO/IEC 42001（AI管理システム）が組織レベルのガバナンスを提供するのに対し、本仕様は個々のAI判断をプロトコルレベルで検証可能にする実装仕様を提供します。

※ 「初」の主張に関する注記

※1 2026年2月14日時点、5つの独立した調査機関による調査に基づきます。調査範囲はIETF DataTracker、主要国際標準化9団体、学術論文データベースです。「先行事例が確認されなかった」ことは「先行事例が存在しない」と同義ではありません。

※2 IETF Internet-Draftは標準化草案（Work in Progress）であり、IETFによる承認・推奨を意味するものではありません。「IETF標準」ではなく「IETF Internet-Draft」です。

※3 詳細な調査報告書「リーガルテックAI特化IETF Internet-Draft先行事例調査 独立5機関調査統合報告書」は当社ウェブサイトにて公開しています。

AILEX合同会社について

AILEXは「検証可能なAIリーガルOS」を掲げ、AIの判断証跡を暗号学的に検証可能にするリーガルテックSaaSプラットフォームを開発・提供しています。すべてのAI生成は記録され、すべての判断は検証できる——これがAILEXの理念です。

本件に関するお問い合わせ

AILEX合同会社

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-8 渋谷道玄坂東急ビル

Email: info@ailex.co.jp

公式サイト: <https://ailex.co.jp>

IETF Draft: <https://datatracker.ietf.org/doc/draft-ailex-vap-legal-ai-provenance/>

本プレスリリースに記載された情報は発表日現在のものです。